

SPECIAL ARTICLES

脳出血既往例や脳微小出血
保有者に対する抗凝固療法

Oral anticoagulant therapy in patients with intracerebral hemorrhage or cerebral microbleeds

飯田 鉦太郎 Koutaro Iida 佐賀大学医学部内科学講座神経内科
薬師寺 祐介 Yusuke Yakusiji 佐賀大学医学部内科学講座神経内科講師
原 英夫 Hideo Hara 佐賀大学医学部内科学講座神経内科教授

SUMMARY

脳梗塞の一次予防、二次予防としての抗凝固療法は確立された治療であるが、エビデンスとなる大規模臨床試験の結果は頭蓋内出血イベントリスクと塞栓症予防とのリスク・ベネフィットを考慮したうえでのものである。また、このエビデンスが脳出血既往例や脳微小出血 (CMBs) 保有者といういわゆる脳出血ハイリスク例にもあてはまるかは検証されていない。しかし、これまでに蓄積された間接的なエビデンスを断片的に捉えたと、脳出血既往やCMBs保有は抗凝固療法下での頭蓋内出血のリスク因子になる。特に、脳アミロイド血管症関連脳出血患者や5個以上のCMBs保有者、脳葉・脳深部の両領域の混合型CMBs保有者は慎重な対応を要するが、禁忌ではない。2019年になって、同様の集団に対する抗血小板薬のマネジメントを是とする無作為化試験結果が報告された。抗凝固薬についても同様に、直接的な科学的根拠を示すための無作為化試験が待たれる。

KEYWORD

- 脳微小出血
- 脳出血
- 抗凝固療法
- ワルファリン
- 直接作用型経口抗凝固薬